

平成 23 年度 研究のまとめ

富山大学人間発達科学部附属中学校

1 第 3 学年

2 題材名 「オリジナル江戸文様をつくる（シルクスクリーン）」

3 題材について

- ・ 日本の江戸文化の美に触れる

独特の発展をしてきた日本の文様デザインについて知る。

- ・ 繰り返しの美

版画の特性を活かして、連続する文様の美しさに気付く。

- ・ シルクスクリーン版画（孔版）の体験

多くの生徒がまだ経験していない、シルクスクリーン版画（孔版）を体験する。江戸文様（小紋など）の型紙を使用した（ステンシル的な）技法と関連付ける。また、プリント T シャツなど、現代の衣類などにも使用されている版画技法であることも知り、美術文化が生活に息づいていることも理解させる。

- ・ 現代に生きる江戸文様

日本の伝統的な着物、手ぬぐい、のれんなどはもちろん、現代的な雑貨などにも和風の柄として用いられていることを知り、身の回りの文様デザインに興味をもたせる。

4 題材の目標

- ・ 動物や植物、幾何図形などのモチーフを基に、伝えたい内容について、美しさなどを考えて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。
- ・ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩、図柄などの組み合わせを簡潔にしたり総合化したりするなどして、構成や装飾を考え表現の構想を練っている。
- ・ シルクスクリーン（カッティング法）や多版多色版画の特性などから、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現している。
- ・ 動物や植物、幾何図形などのモチーフから、造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。

5 材料及び準備物

- ・ シルクスクリーン多色用セット 550円：アーテック
(張り枠1 カッティングペーパー3枚 スキージ1 カッター1)
- ・ シルクスクリーン用インク、刷り紙、

6 指導計画（全8時間）

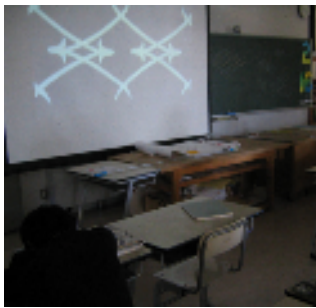
次 (配時)	学習活動	教師の支援	評価
1 (1)	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHK 教育：美の壺「江戸の文様」を視聴する。 ・手ぬぐいに使われている江戸文様の例を見る。 ・江戸文様の参考資料を鑑賞し、植物文様、動物文様、器物文様、幾何文様などの種類があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物の手ぬぐいを用意して提示する。 ・それぞれの例を示したワークシートを準備して、概念の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や植物、幾何図形などのモチーフを基に、伝えたい内容について、美しさなどを考えて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしているか。（アイデアスケッチ、作品、ワークシート）
2 (6)	<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物文様、動物文様、器物文様、幾何文様を窓口として、何をモチーフにするか決め、単純化や抽象化し、ひとつのモチーフを構想する。 ・ひとつのモチーフの形が決まったら、それをどのように構成して連続文様にしていくのか、アイデアスケッチをしながら構想する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・三版刷りとなるよう、配色を考えてシートに転写する。 ・色が入る部分を切り抜き、スキージで刷る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つのアイディアに固執せず、より洗練されたデザインとなるよう、様々にバリエーションを広げるように助言する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・配色により全体の印象が変化することに気付かせ、表したいイメージに合うような配色を検討するよう助言する。 <p style="text-align: center;">〔共通事項〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩、図柄などの組み合わせを簡潔にしたり総合化したりするなどして、構成や装飾を考え表現の構想を練っているか。（アイデアスケッチ、ワークシート） <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーン（カットティング法）や多版多色版画の特性などから、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現しているか。（作品）
3 (1)	<p>相互鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をする。 ・相互鑑賞を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの意図を文章で説明させる。 ・友達の作品のよいところを、具体点をあげてワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や植物、幾何図形などのモチーフから、造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しているか。（ワークシート）

7 実践を通しての考察

- ・版画というと多くの生徒が木版をイメージし、「大変だった」という感想をもっている。また、紙版やドライポイントなどの経験もある生徒はいる。今回、孔版（シルクスクリーン）という技法を体験させることで、版画の概念を広げることができたと思う。さらに、多版多色の説明をする際、浮世絵版画にも触れ、同じような工程でできるものであることを理解させた。

- ・ 導入で用いた、美の壺「江戸の文様」は、緻密な技術を要求される職人の技や、江戸のしゃれなどが入った文様に込められた意味などが解説され、日本の伝統の奥深さを知り、興味を喚起するのに有効であった。
- ・ 植物文様、動物文様、器物文様、幾何文様を学習した後、具体的なものを基に文様として抽象化していく工程は、デザインの根幹であり、アイデアスケッチを重ねながら洗練されたものになるよう助言した。
- ・ 現在、和風な物のよさが見直されたり、若者には、おしゃれな物として新鮮な印象をもたれたりしている状況がある。これを機会に、身近な江戸文様に気付いたり、意識的に自分の生活に取り入れたりするようになってほしいと考える。

<導入「美の壺 江戸の文様」>



<刷りの様子>



<作品例>

